

中学校外国語研究部

I 研究主題

「聞くこと」「話すこと」「読むこと」「書くこと」の4技能を総合的に活用できる生徒の育成
ーコミュニケーション能力の育成を目指した指導と評価の工夫ー

II 研究主題設定の理由

いよいよ来年度、平成24年度より、新学習指導要領が全面実施される。新・旧の目標を比較すると、現行の指導要領では「聞くこと」「話すこと」が重視されているが、新学習指導要領では、4技能全ての育成を重視している。また、内容については、領域ごとの言語活動における指導項目が再編成され、「正確に」「適切に」「正しく」という言葉が多くある。更に「聞くこと」や「書くこと」を通じて得た知識等を「話すこと」や「書くこと」を通じて発信できるよう、4技能を統合的に育成する指導の充実を図る、と示されている。

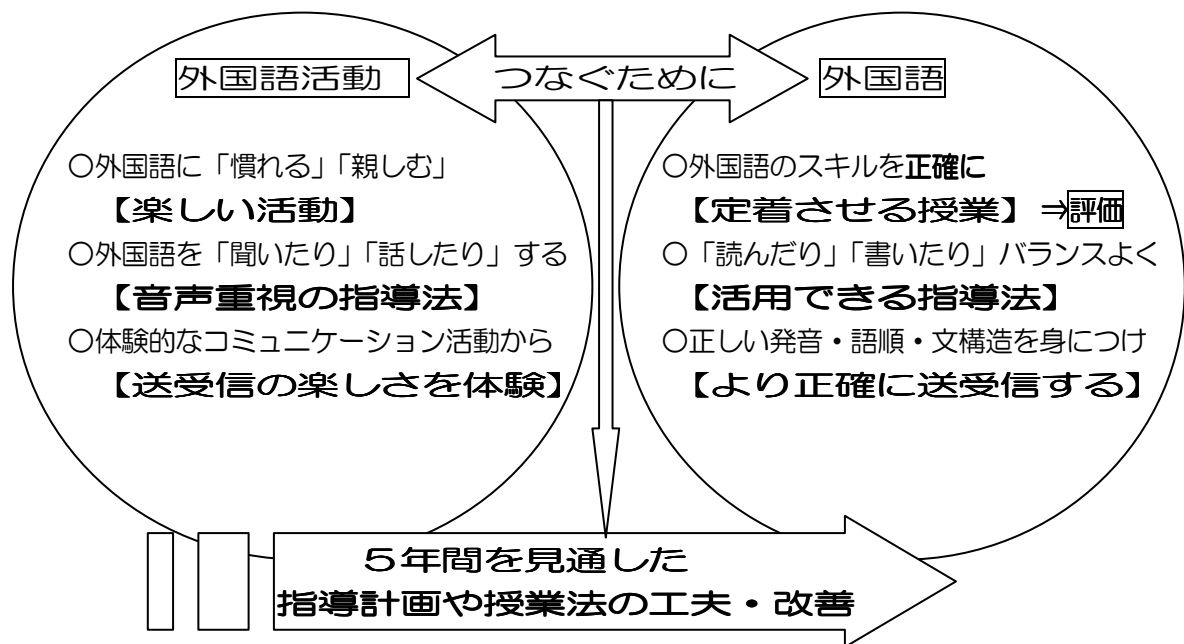
これに加え、小学校では本年度から「外国語活動」がスタートし、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しみ、コミュニケーション能力の一定の素地を育んだ生徒がこれから入学してくるわけである。中学校は「外国語活動」についてよく知り、小学校での活動を踏まえ、それを発展させていくことが特に重要になっていくと考える。

本研究部では、4技能を総合的に活用できるコミュニケーション能力を育成させるためには、どのような指導計画や指導の工夫・改善が有効かを教材研究や授業研究を通して検証し、提案することとした。

III 研究の内容及び実践例

1 英語教育小中連携研修会から（指導・助言：埼玉大学 及川賢准教授）

(1) 「外国語活動」と「外国語」の相違点から見えてきたもの



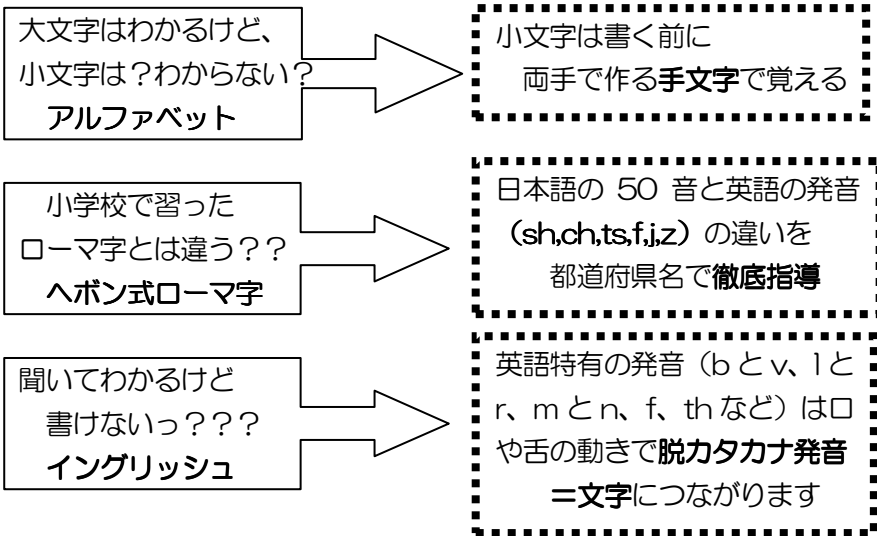
(2) 5年間を見通した指導計画や指導法の工夫・改善

①小学校「外国語活動」の実態を把握し、授業に活かす

- 英語ノートや学びノート DVD の内容や指導計画を知る
- 小学校の先生方のアイディアから学ぶ

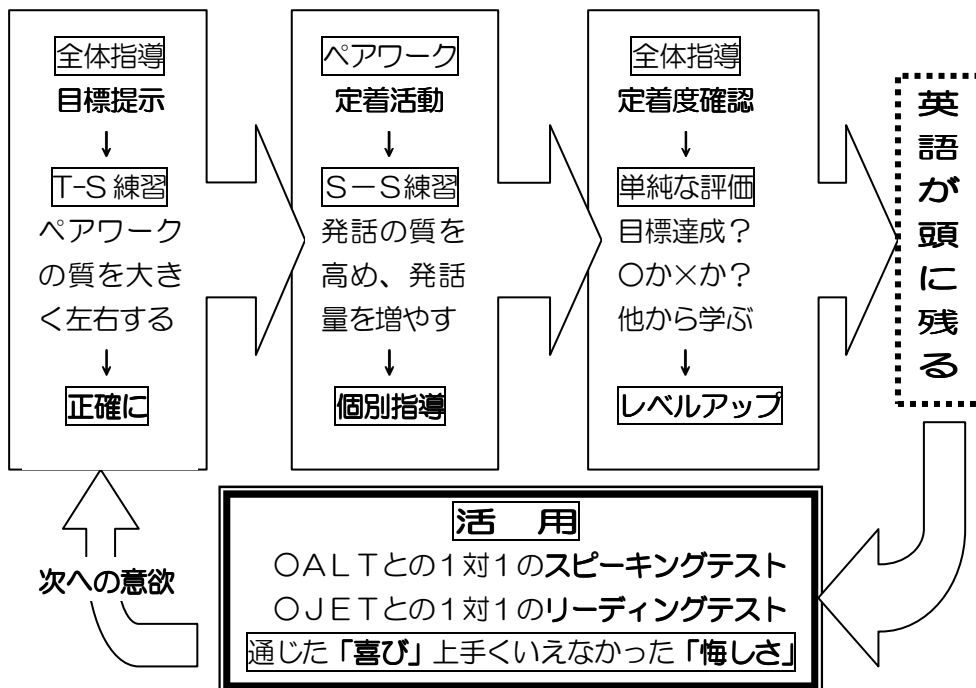
- 小学校で「やった、聞いたことがある」から導入してみる
- 「楽しい体験活動」とは違う活動にするためには
 - ・目的（評価規準）をはっきりとさせ、競争活動にはしない
 - ・活動前の練習を充実させ、正しい英語で顔をみて活動させる

②慣れ親しんだ「音声」を「文字」につなげる⇒「話す」「聞く」から「書く」「読む」へ

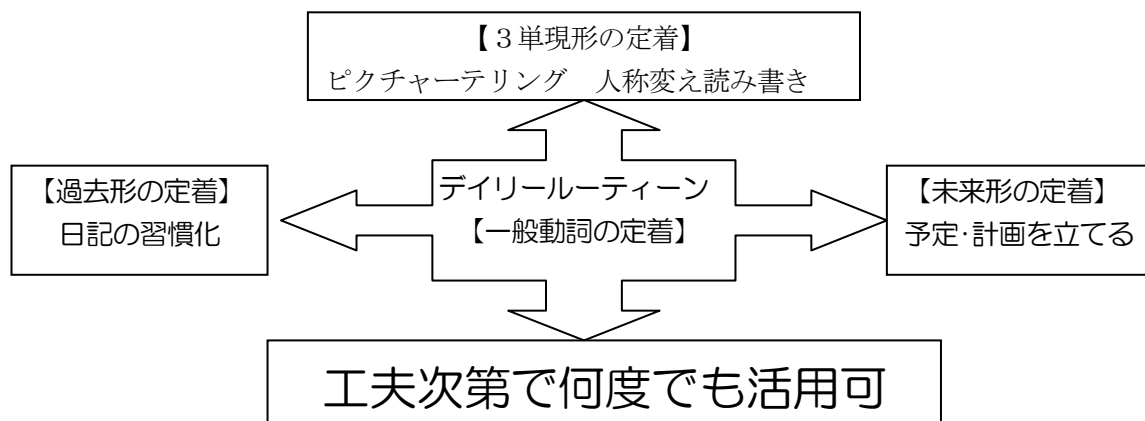


③正確に定着させる指導法の工夫・改善を図る

○授業や単元の中で：生徒間発話（音声面）の質を高め、発話量の増大を図る



- 「定着」を意識した教材のスパイラル活用
～1年間・3年間の中で教科書や教材をリユースしてみる～



(3) 実践例

第1学年 英語科学習指導案

1 題材名 Sunshine English Course 1 Program 3 シンガポールからのお客さん

2 題材設定の理由

(1) 生徒観

小学校での「外国語活動」を経験してきているので、「聞くこと」「話すこと」において、

- あいさつや簡単な英語を使ってやり取りをすることができる生徒が多い。
- 英語を使うことが楽しいと感じている生徒が多い。
- 語彙力も比較的あるため、表現活動にも意欲的に取り組むことができている。

(2) 教材観

由紀や武史が総合的な学習の時間にシンガポールからの留学生の英語での自己紹介を聞き、留学生に英語で質問している。シンガポールの簡単な紹介や好きな食べ物、教科という身近なことを話題にしている。由紀や武史が物怖じせずに、英語で話しかけている姿勢を学び、AETやJET、友達と自己紹介し合い、自分や相手の興味や関心があることについて聞きたいという思いを高めたい。

(3) 指導観

一般動詞を導入することは、生徒の表現の幅を広げる、絶好の言語材料と考える。生徒が興味、関心を持って表現活動ができるよう工夫し、身に付いた英文を使い、自己表現ができるようにしていきたい。また、今後の活動にもつながるよう、「朝起きてから、夜寝るまで」の Daily Routine でよく使う表現も身につけさせたい。

3 指導計画

時間	主な目標	主な学習活動	研究主題との関連
1 2 3	○一般動詞を使った文の学習 1. 肯定文 2. 疑問文・否定文 3. what を使った疑問文の用法を理解させる。	・パターンプラクティスや基本的な練習問題に取り組む。 ・アクセントやリズムに注意して発音し、基本文を覚える。	・定着を図る ・適切な音声から文字につなげる指導
4	○本文の音読指導 ・単語⇒フレーズ⇒文の順で正しく発音させる。 ・英文の一部が日本語になっている「変換読み」や日本語訳を「通訳読み」をさせる。	・色々な方法で繰り返し発音する。 ・アクセントやリズムに注意して発音し、スムーズでクリアな発音を目指す。	・定着を図る ・適切な音声から文字につなげる指導
5 本時	○言語活動 ・Daily Routine について英語で Q&A を行う。 ・My Daily Routine を英語で書く。	・発音に気をつけて、Q&A を行い、正確に伝え、正確に聞き取る。 ・プリントに自分の日常生活について英語で正しく書く。	・「外国語活動」の復習～定着へ ・適切な音声から文字につなげる指導
6 7	○まとめの活動 ・一般動詞を使った文のまとめをさせる。 ・本文のまとめをさせる。 ○音読チェック ・教科書本文を正しく音読させる。 ○Speaking Test ・ALT と Daily Routine についての Q&A をさせる。	・プリントを使用してまとめの学習に取り組む。 ・1人1人が教師の前で音読し、チェックを受ける。 ・AET と 1対1 で会話をする。	・定着を図り、学力向上を図る ・適切な音声から文字につなげる指導 ・定着した英語を「活用」させ、次への意欲を高める

4 本時の学習

(1) 本時の目標

- ① ペアワークにおいて、間違えることを恐れず話すことができる。
- ② 日常生活について英語で尋ねたり、答えたりすることができる。
- ③ 日常生活について、英語で正しく書ける。

(2) 評価規準

評価の観点	内容のまとめりと評価規準	評価場面
ア コミュニケーションへの関心・意欲・態度	①意欲的に英語であいさつをしたり、諸活動に取り組んだりしている。 ②ペアワークにおいて、間違えることを恐れず話している。	・活動の観察 ・後日の Speaking Test
イ 表現の能力	①日常生活について英語で尋ねたり、答えたりしている。 ②日常生活について、英語で正しく書いている。	・活動の観察 ・後日の Speaking Test ・プリントへの書き込み

(3) 展開

過程	学習活動	学習内容	評価規 準との 関連	指導上の留意点	資料等
Warm Up (5)	1 あいさつ ○教師と生徒 2 手文字 ○アルファベットの歌	・ Good morning everyone. ・ How are you today? ・ I'm fine thank you, and you? ・ I'm ~, thank you. ・ 歌にあわせて、アルファベットの 小文字を両手で作る。	ア ① ア ①	・ 正しく発音できて いるか確認し、適宜 指導する。 *特に f と t h ・ アルファベット小文字の 定着を確認する。	CD リポータ -
展開 (35)	3 Listening ○日常生活につ いての DVD を視 聴する。 「外国語活動」の 復習	・ DVD の視聴内容を簡単に日 本語で確認する。	ア ①	・ 日常生活で使う動 詞を理解させる。 ・ はっきり聞こえる 語を聞き逃さないよ うにさせる。	・ 英語学 びノート小 学 生 版 (DVD)
	4 言語(定着)活 動 ○日常生活につ いて英語で Q&A ができるよう練 習をする。 5 Activity ○日常生活につ いて英語で Q&A を行う。	Q:What time do you get up? A:I get up at 6:00. ・ 単語⇒フレーズ⇒文の順で、ゆ っくりと、 正確 に言えるよう練 習する。 ・ 日常生活についてクイズと Q &A を行い、自分と同じ時間の 生徒を探す。	ア①② イ ① ア①②	・ 発音、アクセント やリズムに十分注意 して練習し、言語活 動がスムーズにでき るようにする。 ・ 音声と文字の結び つきを意識させ、「書 く」ことへスムーズ につながるようにす る。 ・ 会話をする上で大 切なことを確認す る。 ・ あいさつや Me too. Oh, really? Too late Too early!など の言葉も指導する。	・ プリント 【資料 1】
まとめ (10)	6 英作文 ○日常生活につ いて英語で書く。	・ 自分の日常生活について英語 で書く。 I get up at 6:00. I have lunch at 1:00. I go to bed at 10:00.	ア ① イ ②	・ 時間に余裕のある 生徒には教科書の P126 を参考に書く よう指示する。 ・ 音声と文字の結び つきを確認する。	・ プリント

【資料1】

Program 3 ☆自分の1日について英語で言えるようにしましょう☆

My Daily Routine

class () No () Name ()

○クラスメートに聞いてみよう。同じような生活をしているのさだめ!

Q: What time do you **get up**? 「何時に～しますか?」
動詞「～する」

A: I **get up** at 6:00. 「〇時に～します。」
動詞「～する」 時間



○自分の生活について英語で書いてみよう。

I get up at ()

- 2 4技能をバランスよく指導するために
 (1) 逆向き設計で単元の中に4技能を配置する

目標の明示・モデルの明示 (評価規準)

「英語のこの力を身につけて活用できるようになって欲しい!」
 ○聞く力?読む力?(理解力)・・・何を受信するのか?
 ○話す力?書く力?(表現力)・・・何を発信するのか?

単元の指導計画作成

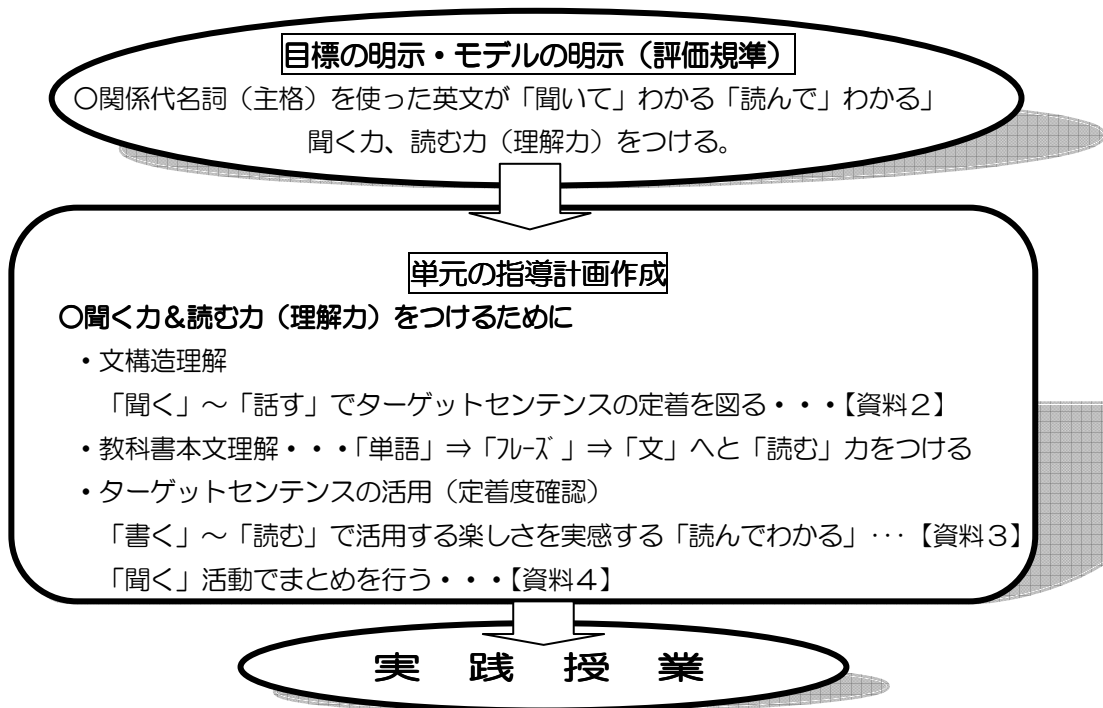
「いつ」「どの力」をつけるために「何を」「どう」指導するのか?
 ○聞く力&読む力(理解力)
 単語理解(音声・文字)? 文構造理解? 教科書本文の理解?
 ○話す力&書く力(表現力)
 正確な語彙力? 基本文活用力? 教科書本文の活用?

1時間の授業指導計画の作成

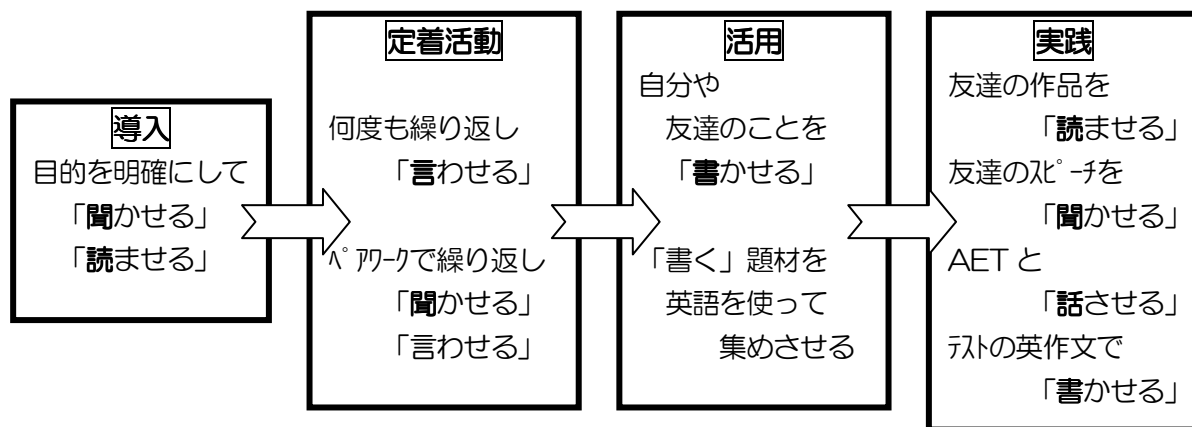
この時間で「何を」指導し、どのレベルまで定着させるのか?
 ○語彙力? ○適切な音声指導?
 ○基本文やスキットのインプット?
 ○教科書本文のインプット?

実践授業

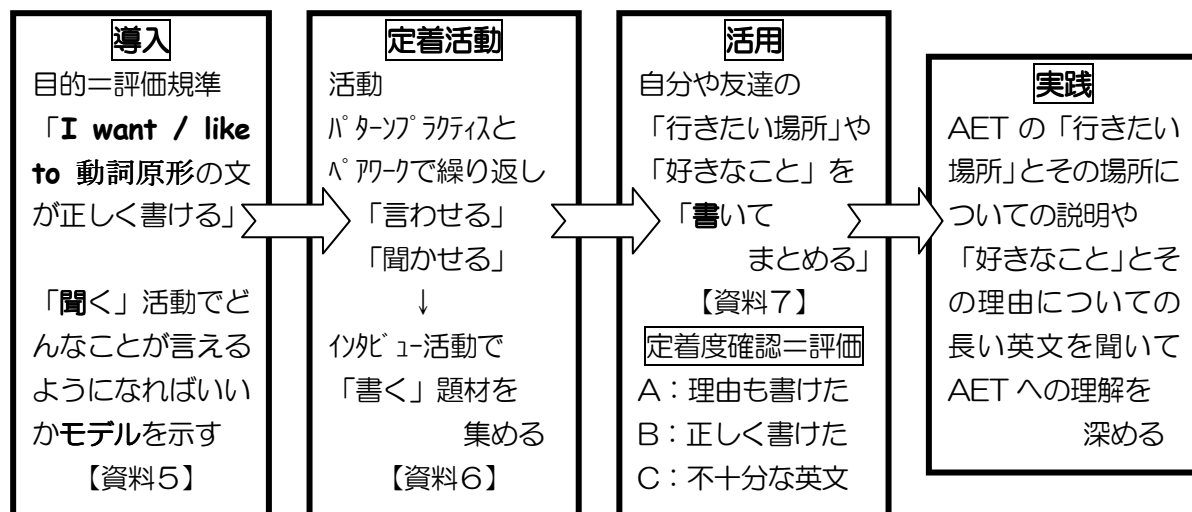
実践例 ～関係代名詞（主格）の用法～



(2) ターゲットセンテンスを4技能で使いまわして、定着を図る



実践例 ～不定詞の用法～



【資料2】 ペアワークで繰り返し何度も「聞いて」「話して」定着を図る

《 WORK SHEET 》

Name ()

Let's Ask Your Partner!
- Do you have a friend who is from ~ ? -

(1) まず、ペアになり、自分と友達になりたい人物を下の3人の中から一人選んで、人名を○で囲みましょう。そして、もう一方は①~④の項目について、「~の友だちがいますか」と、英語で質問して、パートナーが誰を友だちに選んだのかを当てましょう。必ず、①~④について1つずつ質問しましょう。

- ① 出身地をたずねる
Do you have a friend who is from ~ ?
- ② 住んでいる所をたずねる。
Do you have a friend who lives in ~ ?
- ③ 好きな教科をたずねる
Do you have a friend who likes ~ ?
- ④ 興味をたずねる
Do you have a friend who is interested in ~ ?

	Joe	Bill	Mary	John	Nancy
Birthplace (出身地)	San Francisco	London	New York	Sydney	Chicago
Address (住んでいる所)	Nagano	Sapporo	Kyoto	Osaka	Fukuoka
Favorite Subject (好きな教科)	Math	Science	P.E.	Social Studies	Homemaking
Interests (趣味)	music	art	sports	motorcycles	computers

(2) パートナーから聞き取ったことをもとに例にならって英文を書いてみよう。

【Example】

- ① 出身地
Kentia has a friend who is from New York.
- ② 住んでいる所をたずねる。
Yuka has a friend who lives in Kyoto.
- ③ 好きな教科をたずねる
Daisuke has a friend who likes P.E.
- ④ 興味をたずねる
Keiko has a friend who is interested in art.

- ① _____
- ② _____
- ③ _____
- ④ _____

(3) あなたには、どんな友達がありますか。関係代名詞Whoを使って友達について、書いてみよう。

- ① (友達: _____)
- ② (友達: _____)
- ③ (友達: _____)
- ④ (友達: _____)
- ⑤ (友達: _____)

【資料3】 ~クイズを作る~

自分で選んで「書いた」クイズに友達が「読んで」答える

○正しく英語が活用できる



○クイズの出し合いが楽しい



○もっとできるようになりたい (次への意欲)

犯人は誰か？



(ヒントを考えよう) 犯人は、どんな特徴を持っているかを考えよう。
「彼は~をしている...男の人」

犯人は 君

- ① 彼は (He is a man) している男の人です。
- ② 彼は (He is a man) している男の人です。
- ③ 彼は (He is a man) している男の人です。
- ④ 彼は (He is a man) している男の人です。

(名詞) メガネ: Glasses 銃: gun 包丁: kitchen knife 平ぬぐい: towel お金: money
(動詞) かぶる(身に付ける): wear 持つ: hold 開く: open

Class No. Name _____

【資料4】職業カルタ・・・「聞いた」順に札を並べてみる（5問×6回、又は10問×3回）



目標＝評価規準 A：ほぼ全問正解 B：半分以上 C：半分以下

【資料5】

不定形を自由に使えるようにしましょう

1. 次の英文を聞いて、下の各イラストの言葉を表しているものを選び、記号で答えましょう。

(1) マンガを読むのが好きなんだ。

answer

(2) 新しい自転車を買いたいなあ...

answer

(3) やることがたくさんあるの。

answer

(4) 夕飯を食べたでけけましょうよ。

answer

2. 外国人がクミミに道を尋ねています。次の対話を聞いて、その内容を最もよく表しているものをA～Cの中から選び、記号で答えましょう。

(1) この男の人は、

A. 図書館に行きたい。
B. 本屋さんにいきたい。
C. 駅に行きたい。

(2) クミミは、

A. 目的地までの地図を書いてあげた。
B. 目的地への行き方を説明してあげた。
C. 目的地まで一緒に行ってあげることにした。

(1)

(2)

【資料6】

3. 実際に使ってみよう。
友達にインタビューして、その友達のとりたいこと、好きなことを発見しよう。

Q. Where do you want to go?
→ I want to go to (自分の行きたい場所)

Q. What do you like to do?
→ I like to (自分の好きなこと)

- ヒント
- go abroad (外国に行く) eat hamburgers (ハンバーガーを食べる) sleep (寝る)
 - watch TV (テレビを見る) drink cola (コーラを飲む) play sports (スポーツをする)
 - paint pictures (絵を描く) talk with friends (友達とおしゃべりする) cook (料理をする)
 - ride a bicycle (自転車に乗る) listen to music (音楽を聴く) go to karaoke (カラオケに行く)
 - write a letter (手紙を書く) read a comic book (漫画を読む)

何人の友達にインタビュー出来るかな?

Name	Where do you want to go?	What do you like to do?
1		
2		
3		
4		
5		
6		

【資料7】

目標＝評価規準

・・・【資料5】がモデルなので
A：理由等も正しい英文で
書けている

B：I want to ～.
I like to ～.が正しい英文で
書けている

C：I want to ～.
I like to ～.の英文が
正しく書けない

4, Today's point 不定詞 (to+動詞の原形) ～すること

不定詞 (to+動詞の原形) ～すること

OI want to～は「～したい」、I like to～は「～することが好き」となる。
このように、to+動詞の原形は「～すること」という意味で不定詞という。

I want to go to Hokkaido. 私は北海道に行きたい。
I like to listen to music. 私は音楽を聴くことが好きだ。

自分の答えを書いてみよう。

行きたい場所	
	I want to go to () .

したいこと	
	I like to () .

IV まとめと課題

1 英語教育小中連携研修会から

研修会や小学校の先生方との交流を重ねた中で、「外国語活動」の全体像が把握できたこと、小学校の先生方が熱心に指導している様子を拝見でき、刺激を受けたことが一番の成果である。

私たち中学校の教員は「外国語活動」で慣れ親しんだ英語を、「外国語」の授業で「正確に」「定着」させるため、更に研修を重ねるべきであると痛感した。

また、中学校区の小学校と情報交換を行い、5年間を見通して、「こんな生徒に育てたい」という想いを共有すべきと考える。所沢市では英語ノートだけでなく、外国語活動用の学びノートDVD版が全小学生に配布され、そのDVDを基に年間指導計画も作成され、指導しやすくなっている。中学校の教師がそれらに目を通すだけでも、「外国語活動」と「外国語」がうまくつながるのではないだろうか。これから入学してくる生徒は確実に今までとは違ってくる。だからこそ、私たち中学校の教師が行う授業も工夫・改善し、今までとは違う授業にしていく必要がある。

2 4技能をバランスよく指導するために

単元や授業の目標＝評価規準を明確にすることで、教師は「何をどう指導すべきか」が、生徒は「何を学習するのか」が明確になり、生徒の授業への意欲や関心が高まったことが成果の一つとしてあげられる。

また、「4技能をバランスよく配置すること」は非常に難しいと考えていたが、「4技能を単元や授業の中で上手くつなげる」とスムーズに指導できるのがわかったことも大きな成果である。

そのためには、新学習指導要領や「評価規準の作成、評価方法の工夫改善のための参考資料(国立教育政策研究所)」などを参考に、日々の授業だけでなく、指導計画や評価方法の工夫・改善に努めることが必要と考える。